

グラスルーツからの日米関係強化に関する
政府タスクフォース（各地各様のアプローチ）
第3回（最終回）会合 議事要旨

1. 開催日時 : 平成29年7月13日（木）16時半～17時
2. 開催場所 : 官邸3階南会議室
3. 概要

1 本会合では、前回の議論などを踏まえて取りまとめられた行動計画案について報告が行われ、その後、出席者の間で、各々の省・機関の今後の取組について議論が行われた上で、「行動計画」が取りまとめられた。

2 最後に、萩生田光一内閣官房副長官より、以下の発言があった。

「第3回会合では、本タスクフォースの最終回として、タスクフォースのメンバーから最終的な成果物としての「行動計画」について、議論いたしました。

この行動計画では、日米関係の更なる強化のために米国の一般国民にも行き届く草の根レベル、すなわちグラスルーツレベルでの取組を打ち出していくことの重要性、また、その取組も各地において各様であることの必要性を認識しつつ、地域の特徴に応じた「テイラー・メイド」のアプローチをとるべきであること、また、訴求対象の日本への関心度に応じたきめ細かなアプローチをとるべきであることについて述べています。

その上で、行動計画では、今後のグラスルーツにおける取組の展開として、重点地域の選定や、官民や米側の関連団体との連携体制を構築し、様々なイベントや事業をパッケージ化したモデルプロジェクトの企画と推進などを検討することとなっています。既に、いくつかの具体的なアプローチについて報告を受けていますが、この行動計画の内容は、できるものからすぐに着手し、迅速に実施していくべきと考えます。

また、本日も各省・機関から様々な意見が出ましたが、このグラスルーツの取組は、まさにオールジャパンで進めていくべきものであると改めて強調したいと思います。このタスクフォースの行動計画を契機として、グラスルーツにおける取組が各方面の連携を通じて行われ、ひいては米国における我が国への理解促進、そして重層的な日米関係の強化につながることを期待します。」